

県からの回答にグリホサートが触れられていないことについて

要望事項の中心内容は、「市販されているパンなどに、発がん性が指摘されている**グリホサートの残留が検出されている事**を背景に、学校給食のパンの原料を、国内産に変えていただきたい」というものです。しかし、熊本県教育委員会からの回答書では、グリホサートへの懸念には触れず「使用される小麦は、**国の基準を満たしたものを熊本県学校給食会が購入しております**」となっています。当会から要望・署名とともにグリホサートの問題点に関する資料情報等を提出したにもかかわらず、残留グリホサートの長期微量摂取の危険性の問題提起について熊本県教育委員会からの見解の表明がなかったことは大変残念に思います。

それでも、私たちの感触としては、要望書につけた趣旨文の前書きと本文で、5頁にわたってグリホサートの問題点を詳しく提起した事が、影響を与えていると感じています。回答文面に表だって直接表現されてはなしとしても、「**グリホサート残留が当たり前という状況は異常である**」と感じたからこそ、今回の回答全体が、「地産地消を積極的に進める」というかなり前向きな回答になっているのではないのでしょうか。

「国の残留基準が、ある日突然6倍に緩和される、物によっては400倍に緩和」ということであれば、「**基準って一体何だろう？**」と考えざるをえません。

また、突如緩和された基準値を下回るとしても**低濃度の長期継続接種の影響**については、多くの問題が指摘されるようになってきています。国自身の統計発表で、米国产、カナダ産小麦では90パーセント以上のグリホサート残留がある、という検査結果と照らし合わせれば、子供たちが長期にわたって食べ続ける給食について、改善すべきと考えるのが、ごく自然なことではないのでしょうか。

食べ物だけでなく、あふれるグリホサート

EU 諸国を筆頭に多くの国が、グリホサートの規制に動き出している今日、**日本だけがそれと全く逆行**しています。

ホームセンターでは、グリホサート系農薬があふれるほど売られています。農協では刈払機にアタッチメントをつけてラウンドアップを散布する機器が販売されています。これが日本の現状です。

給食用の食材を安心な物に変えていくことと相まって、社会全体にグリホサート汚染が広がることも止めていきましょう。

↓ホームセンターにならグリホサート



↓草刈り機につける散布用アタッチメント

